

平成30年度 学力向上アクションプラン

尼崎市立小園中学校

<p>学力調査結果等から見た 学力向上についての課題</p> <p>学習習慣の定着(学習の量) ・全国学力・学習状況調査に於いて、授業以外の学習量は、ほぼ全国と同じ傾向が見られているが、家庭学習ノートを活用し、更なる増加を目指して行く。</p> <p>活用する力の育成 ・「授業の中で、友だちと話し合う活動を行っている」の質問に対し、全国との差があり、アクティブラーニングを視点に、授業改善を行っていく必要がある。</p> <p>授業改善の推進 ・授業の目当て(目標)とまとめを明確にしたり、異校種からの指導方法や指導内容を学んだりすることで、授業改善を図る必要がある。</p> <p>学習内容の共有化(学習の質) ・他の生徒が学習にどのように取り組んでいるのかを廊下等に展示し、生徒間で共有することで、自分の学習内容を振り返り、学習の質を高める。</p>
--

課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)		
授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組
<p>小中連携研究授業 ・小中合同で授業研究を行い、互いの指導方法を共有することにより、校種間の段差を低くすると共に、授業改善や授業力の向上を目指す。 特に、中学校側に於いては、グループ・ワーク等において、表現力・思考力を育むことを目指す。</p> <p>目標及びまとめの提示(マグネットペーパーの活用) ・各教科において、本時の目当て(目標)等を黒板に示すなど、見通しと振り返りを明確にする。</p> <p>先進校視察 ・福井県永平寺町立永平寺中学校の取組を検証することにより、さらに落ち着いた学習環境を整備し、学力の向上に繋げる。</p>	<p>自主学習ノートの実施 ・自主学習ノートを使用し、家庭学習を行うことで学習習慣の確立と学習量の向上を目指す。 また、生徒の自主学習ノートをプリント等で公表したり、廊下に掲示するなど生徒間で共有し、自分の学習内容を振り返り学習の質を高める。</p> <p>自主学習会の開催 ・学習習慣のきっかけをつくり、家庭学習の仕方を身につけるため、木曜・土曜・日曜(木・日は3年生対象)の週3回、自主学習会を開催する</p> <p>活用力の育成 ・マナボードを活用し、授業の中で、友達との話し合い活動の充実を図り、活用力等の育成を目指す。</p>	<p>連絡帳「タイムくん」の使用 ・生活・学習習慣を確立するため、自分自身で生活を振り返り、自発的なやる気を育てるなど、自己指導能力を高めるために、連絡帳を全校的に使用する。</p> <p>ICTの積極的活用 ・eラーニングの活用と普通教室における指導者用PCの活用を促進し、生徒の学習意欲の向上を図る。</p> <p>英検への挑戦 ・授業等でのアナウンス力を入れ、準会場での受験者の増加を目指す。</p>

<p>本年度の具体的な目標</p> <p>全国学力・学習状況調査及び尼崎市学力生活実態調査結果 「学校以外の学習時間1時間以上」 …各学年とも70%以上 「自分で計画を立てて勉強をしている」 …3年で55%以上 「授業の中で話し合う活動を行っている」 …各学年とも70%以上 「国語の授業がわかる」 …各学年とも「はい」「だいたい」85%以上 「数学の授業がわかる」 …各学年とも「はい」「だいたい」80%以上</p>
--

<p>校種間連携</p> <p>合同研修会の実施 ・夏季休業中に生徒支援や学力向上をテーマに学識経験者から指導を受けると共に、小中教員が意見交流を図る。 小中連携合同研究授業の実施 ・表現力・思考力を高めることを目的に、小学校の授業から、ペアトークやグループ・ワーク等のスキルを取り入れて行く。本年度も2教科に於いて合同研究授業を実施する。 入学前テストの実施 ・学力実態の把握、及び入学後の授業づくりの参考にする。 クラブ体験会・見学会の実施 ・小学校6年生を中学校に招き、クラブを体験・見学することで入学への不安感を和らげ、小中の段差を低くする。</p>

活用する支援内容	
支援内容	具体的内容
講師招聘支援	<p>小中合同研修会【講演会及び教科等分科会】 ・講師 京都大学高等教育研究開発推進センター 教授 溝上 慎一 氏 ・場所 尼崎市立双星高等学校</p> <p>小中連携合同研究授業 ・講師 京都産業大学理学部数理学科 教授 牛瀧 文宏 氏 ・研究教科 算数・数学科及び国語 ・実施回数 1教科につき、小中学校1回ずつ 計4回</p>
先進校視察	<p>福井県永平寺町立永平寺中学校 ・先進校の取組を検証し、本校の学力向上につなげる。</p>
放課後等学習支援	<p>木曜・土曜・日曜チャレンジ学習の実施 2h×週3回×2.5週 夏季休業中の学習会(3年)の開催 2h×10日間</p>
学力定着支援	<p>マナボードの整備 ・各学年で10枚用意する。積極的な利用と共に、効果的な使用方法を研究する。</p>

<p>家庭・地域との連携</p> <p>自主学習ノートを用いた学習習慣の確立 ・学習習慣を定着させるための連携・啓発・協 力に視点を置き進めて行く。</p> <p>木曜・土曜・日曜チャレンジ学習への参加 ・家庭における学習会への参加呼びかけ ・地域の方による学習会指導者としての参加</p> <p>学力調査結果の公表 ・ホームページによる結果の公表 ・保護者や学校評議員との意見交流</p>
--